

小豆島地域公共交通協議会

平成21年6月18日設置



概要

小豆島の交通機関としては、路線バスが観光客や、高齢者の足として重要な位置を占めているが、マイカーの増加、人口の減少によるバス利用者の減少と共に、近年は既存バス路線の廃止ないしは便数の減少問題が浮上し、交通空白地帯の発生に直面している。この問題への対応を図るには、公共交通の利用状況などの現状分析をはじめ、効率的、効果的な路線バスのあり方や、一部地域におけるデマンド型代替交通機関の検討、さらに、島外とを結ぶ唯一の公共交通機関である航路の利用促進策など、小豆島の地域特性を生かしながら、バスや船などの公共交通が連携した新たな公共交通体系の構築が必要であると考えられる。

- 地域公共交通の現況
 - ・路線バス
小豆島バス(株)(路線数:9自主路線)(定期観光バスを除く)
コミュニティバス 運行地域
土庄町(西浦地区、大鐸地区、四海地区)
各1日5便(小豆島バスによる運行)
小豆島町(田浦地区1日1便、中山地区1日5便)
 - ・フェリー及び高速艇
両備ホールディングス(株)、国際フェリー(株)、瀬戸内観光汽船(株)、小豆島急行フェリー(株)、内海フェリー(株)、四国フェリー(株)、小豆島フェリー(株) 合計7事業者8航路

- 地域公共交通の課題
既存バス路線の廃止ないしは便数の減少問題
効率的、効果的な路線バスのあり方

- 調査の主な内容
現況交通実態調査
道路や歩道、交差点、バス停などの安全対策調査
利用者ニーズ調査(アンケート調査)
海上、陸上の連携を考慮した試験運行(運航)

- 地域公共交通総合連携計画の構想
島内の路線バスの再編検討
船便の運航時間の再検討
デマンド型交通の導入検討
道路や歩道、交差点、バス停等の利便性の向上

